

第8回日展

第4科（工芸美術） 審査所感

審査主任 三田村 有純

第8回の応募数は昨年より若干減りましたが、力作がたくさんあったことは嬉しい事です。外部審査員二人を含む19人の審査会では、それぞれの工芸観について語ることから始めました。立体作品から審査に入り、丁寧に作品と対話し、日にちを変えて二審、三審、四審と重ねて行く中で入選が決まり、続けて平面作品の審査に入りました。

特選の10点を決めるにも二日間かけて、何度もの審議を行い、最終的には全員で投票を行い、令和3年を代表する作品として選出しました。惜しくも特選から外れた作品も力があり、次年度以降の作品に期待して止みません。

第4科の作品は様々な素材、表現からなる創作的なものです。新しい時代への力強いメッセージを持つ作品群が豊かな未来を作る礎になることと信じています。

搬入数 612点

入選数 443点

(内新入選) 34点